



～ 令和5年度 学校評価について ～

本校の学校教育目標「人間性豊かな氷丘っ子の育成—自ら学び辛抱強く努力する心豊かな子—」を達成するために、この一年間、教職員一丸となって教育活動を推進して参りました。その教育活動の達成状況やその達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ることが、毎年実施している学校評価の目的です。

学校評価には、本校教職員による評価「学校自己評価」と、学校運営協議会委員の方々に行っていただく「学校関係者評価」があります。昨年度と同様に、本年度も実践目標の中の「重点事項4項目」に絞って、学校評議員のみなさんに関係者評価を行っていただきました。その結果を保護者の皆様等に公表することで、学校の成果や課題の共通理解を図りながら、次年度の学校運営の改善の向上に努めたいと考えています。

【学校自己評価・学校関係者評価】評価基準（A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い）

| | | |
|---------|--|---|
| 重点事項 | 「確かな学力」を育成する学習指導の充実 ・基礎・基本の学力の定着 ・協働的探究学習の推進 ・思考力・判断力・表現力を養う学習指導 ・言語活動の充実 | |
| 学校自己評価 | C | ・一人一授業の授業研究に取り組み、教員の指導力向上に成果が見られた。引き続き、国語科を中心とする校内研究を推進し、協同的探究学習を核とした主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。学習規律や基礎基本の学力が低い児童への支援が課題。 ・ICT技術研修を計画的に行い、ICT機器を活用した言語活動の充実を図る。 ・モジュールは継続し時数カウントをする。モジュールを入れない場合の時数カウントも行い、必ず標準時数を超えるよう定期的に時間数の点検を行う。 ・全校で朝学の時間に「読書」を取り入れ、学習部会等でその効果を検証し、国語力向上をめざす。 |
| 学校関係者評価 | B | ・「書く力」の底上げ、学力の定着が課題として挙げられていたが、授業研究（国語科）の実施により指導方法や技術を学び、教師の指導力向上に努めている。 ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、自分なりの考えをもってしっかり取り組むことができるよう、協同的探究学習を核として授業改善にさらに取り組んでほしい。 ・教員もICT機器に慣れてきたようで、徐々に結果に繋がっていくのではないかと期待している。今後もICT環境を適切に活用し、学習活動を通して、より効果的な指導を行い、情報活用能力（情報モラルを含む）の育成に取り組んでほしい。 ・朝学で読書を取り入れ、国語力の向上を目指していただくことは、他の教科の学習の力となるので、続けてほしい。 |
| 重点事項 | 「豊かな心」を育む道徳・人権教育の充実 ・あいさつなどの基本的な生活習慣の定着 ・いじめを許さない心の醸成 ・集団や社会のきまりを守る態度の育成 ・命を大切に作る心の育成 | |
| 学校自己評価 | B | ・道徳を中心にローテーション授業を行う。道徳は1時間区切りの授業が多いこと、授業力向上の面で適していると考えられる。次年度も継続したい。 ・「特別の教科道徳」においては、各学期毎に「振り返りの授業」を行い、指導と評価の一体化を目指す。 ・人権参観の実施により、人権教育の取組を保護者にも周知することができた。ローテーション授業を他教科にも拡大し、複数の教師の目で子どもたちをみる機会を増やす。 ・クラブ活動の日数を可能な限り増やし、縦割り活動の充実を図る。 ・特別支援学級と交流学級の児童間、担任間のコミュニケーションの活性化を図る。 |
| 学校関係者評価 | B | ・きまりを守ることや基本的な生活習慣については、日々の指導の積み重ねと継続した指導により定着してきている。 ・道徳においては「考え、議論する道徳」を推進され、ふりかえり授業も行い、指導と評価の一体化に今後も継続して取り組んでほしい。また、とても難しい教科だと思いが、人間形成において一番に大事なことで、民度に直接関係していると思うので、先生方がんばってほしい。家庭でも力を入れるべきだと思う。 ・あいさつは定着していて、子どもたちの口から自然に出てくるようになっている。 ・家庭でも子どもの人数が減り、子どもたちの上下関係の経験のないが増えたので、クラブ活動はとても大切だと思う。 ・児童からのアンケートを基に全員面談を行っているのは素晴らしい。また、職員から出た意見である、ローテーション授業で成果に繋がっているのも素晴らしい。 |



| | | |
|---------|---|---|
| 重点事項 | 「健やかな体」を育む安全・健康教育の充実 ・計画的な体育授業の実践 ・感染症対策 ・学校管理下の事故対策 ・登下校時の安全対策 | |
| 学校自己評価 | A | ・実技を伴う校内職員研修を実施し、体育科の指導力向上を目指した（「ボール運動」「器械運動」「なわとび」）。今後も同様の取組を図りたい。 ・スポーツテストの結果を踏まえ体育の学年年間計画を見直す。 ・「食と健康」についての児童アンケートにより、児童の実態把握に努め、養護教諭、栄養教諭の連携により、健康教育の充実を図ることができた。 ・毎学期の早い段階でエビペン研修を実施してきた。今年度はロールプレイ研修を実施し、緊急時の対応について、各自の役割と連携を再確認することができた。今後も継続して実施していきたい。 ・交通指導員の欠員を出さないよう、地域と協力し次補を見つけておく。 |
| 学校関係者評価 | A | ・体育科においては、専門の方を講師として招いて実技研修を実施し、意欲的に取り組み、教師の指導力の向上に努めている。 ・児童の安全確保については、教師の指導、保護者や地域の方々の協力により効果を上げていく。今後も健康や安全に対して危機意識をもって生活できる子の育成に取り組んでほしい。 ・外で元気いっぱい遊ばない子どもたちが増え、ゲームなどに夢中になる子もいるので、学校で体育の授業に力を入れていただき、うれしく思う。 ・いろいろなアレルギー体質の子どもが増え、先生方大変さがよくわかる。 ・下校時、いつもとは別の道を変える子どもを見かけるが、事故にあわないかが心配である。 |
| 重点事項 | 人間的なふれあいに基づいた生徒指導の推進 ・多面的な児童理解 ・いじめ対策の推進 ・人権教育の視点に基づいた生徒指導 ・組織的、計画的な生徒指導 | |
| 学校自己評価 | B | ・全ての教師が学年・学級の壁をこえて気軽に教室に入れるようにする。（教職員全員で氷丘っ子を見守る姿勢を大切に） ・生活・安全部会やいじめ・不登校対策推進委員会等を活用し、児童の状況把握、情報共有に努める。指導の内容で統一すべきところをしっかりと統一する。 ・いじめ等は、児童との個別の相談機会を増やし、未然防止に努め、組織的に協力して解決するよう心がける。 ・定期的に教育相談日を設け、保護者との積極的な対話を推進する。 |
| 学校関係者評価 | B | ・日々のふれあい、アンケート調査などにより、早期発見、早期対応に努めており、効果をあげている。今後も子どもの悩みやSOSを察知し、心に寄り添う支援をしていくためには、学校として保護者をはじめ、関係諸機関と連携してチームとしての対応力を高めてほしい。 ・「人をいじめない」という教えは、本来は家庭でするものと考えている。家庭の教育力が落ちている今、先生方子どもたちに対しての見守り、指導の努力がよくわかる。 ・教職員不足で穴が開いた部分を助け合っているところがうまくいっている。保護者、地域の方とも直接会って話すことが大切である。 |



今年度も「学校自己評価」と「学校関係者評価」の2つの「学校評価」で成果と課題が明確になりました。また、学校運営協議会委員の方々からは、来年度に向けて学校運営についての提言もいただいております。令和6年度も本年度の成果と課題、ご提言を踏まえながら本校の教育目標を達成するために、日々の教育活動をさらに充実させていきたいと思っております。子どもたちの成長のために、本年度ご尽力いただきありがとうございます。今後もご理解とご協力をお願いいたします。

